

逸話記録より

——テレビの影響をめぐって——

一、十一月十六日 晴、四才児 戸外にて

自由遊びのとき、天気がよいので元氣よくかけまわっている子どもが多かった。よしお、のおお、ひろたかの三人が消防車だと言っ繩の先をにぎってホースのまねをしていた時のことである。

実習生がそこにきて、「何してるの」とたずねた。よしおはそれには答えず、「先生しばっちゃえ」と繩をぐるぐるまわしながらおいかげ始めた。あとの二人も一しょになって追いかける。先生は笑いながら逃げていった。三人は、「カウボーイだよ」と言いながら「よしおも追いかけて、とうとう先生をつかまえた。」「先生なんかしばっちゃえ」とよしおが言うと、「しばっちゃえ」とあとの二人も言い、木の幹へ先生をおしつけて、もっていた繩でしばりつけた。それをみていた他の男の子たちも集ってきて、一しょにしばる。はじめは笑っていた先生もだんだんまじめな顔になり、「さあやめなようね」と言ったが、その遊びに夢中になった男の子たちはやめなさい。そこへ女の子たちがやってきて、「先生がかわいいそうじゃない、よしなさいよ」と言ったが、男の子たちはへやの中にいた人たちもとび出してきて、皆でよってたかって本気で先生を木にしばりつけてしまい大騒ぎとなった。M先生がとんできて興奮している皆をなだめ、やっとその騒ぎはおしまになった。

日本保育学会第十二回大会予告

一、日 時

第一日 五月二十三日(土) 午前十時〜午後四時
第二日 五月二十四日(日) 午前九時〜午後四時

一、会 場 東京家政大学

東京都板橋区板橋町六丁目三五六九番地

一、プログラム

- (1) 研究発表
- (2) シンポジウム(題未定)

一、参加申込

- (1) 正会員は当方より御案内いたします。
 - (2) 準会員は当日受付けます。
- なお、御連絡は左記へお願いいたします。

連絡先

東京都板橋区板橋町六丁目三五六九番地
東京家政大学内

日本保育学会第十二回大会準備委員会

(電話(96)五二二六〇九)

日本保育学会

——一段落してから、よしおたちに「どうしてしぼったの」とたずねると、「テレビでみたんだよ、西部劇だよ」とのことだった。よしおたちはいつもテレビをみているとみえ、よく月光仮面の話、探偵の話などしている。ちょうど先生がいうままにしばらくされてくれたのでついおもしろくなり、自分がテレビでみている悪者をやっつける主役にでもなったつもりになったのだと思う。次の会話は、同じよしおの記録である。

二、十二月十一日 晴、四才児 室内にて
いすに腰かけて絵をかいていたよしおが突然、「先生、スーパーマンしてる」ときく。そばにいたみどりが「私しってるわ」よしお「すごいよ、先生よりスーパーマンの方が大きくて強いんだから。先生なんか一ぺんでのしちゃうよ。」「うん、すごいんだよ」とてつやも口を出す。よしお「きのうなんかね、スーパーマンがね、大あばれしたんだよ」とてつや「そうお、僕ね、きのうも、その前もテレビみないでねちゃったの」よしお「なんだ、てつやちゃんみなか

ったのか」「あら、私はみたわよ」とみどりが口をはさむ。

三、次は三才児年少組の記録である。
十一月四日 晴、室内にて

まさあきがままごとをしている女の子に電話をかけている。「もしもし、こちらは警察庁」そこへこうやが来て、「僕、月光仮面だよ」という。まわりで遊んでいた子が「僕も」「僕も」といってよってくる。そこでこうやは「じゃあ、皆で月光仮面になろうよ」とよびかける。まさあきは、「じゃあ僕はスーパーマンになるよ。ピストルもってすごいんだぞ」という。皆、思い思いの様子をして散ってゆく。

——三才児の組でみんなで何かをしようと呼びかけているのをみたのはこれが初めてである。しかし前の記録に比べて、子ども同志の間にまとまりがないのが目につく。
だが、テレビの英雄はなぜ、こうも暴力ばかりなのだろう。子どもたちが善玉の英雄になろうとすると、きつと暴力になってしまう。

幼児の教育 第五十八巻 第四号

四月号 © 定価五十円

昭和三十四年三月二十五日印刷

昭和三十四年四月 一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌ご購入についてのご注文は発売所フレイベル館にお願いいたします。